

「きっかけ」は、「みんなが幸せに！」でした。

せっかく同じ敷地内に住まわれることになったのに、お互いの存在を感じるがゆえに生まれる物理的・心理的ストレスがあります。せっかくお互いの「補いあえること」「出来ること」を実現しようとしているのに、このままでは「ちょっと残念だなあ…」何か工夫することで「みんなが幸せになれないかなあ…」と常に思い考え、さまざまな経験も経てだんだんと今回の構想もまとまって行きました。

2016年度グッドデザイン賞受賞 【住宅・住空間】

親子世帯の相互扶助を容易にする「庭先近居」

離れの工夫

母屋との微妙な距離感を克服する
離れの建設

はなれによる環境低下に対応する
母屋のリフォーム

母屋の工夫

両者の返済能力を生かした
親子合算ローン

気配は感じるがプライバシーが守れる細長窓を3面に配置

3方を閉じ南面からの採光を家の奥まで届ける工夫

洗濯物が母屋や道路から見えず黄砂被害にもあわない工夫

友人や妻の実家の両親が気兼ね無く来訪できる玄関

孫達の部屋として母屋を利用する渡り廊下

渡り廊下

減築により豊かな空間と高い住宅性能を確保

離れが建つ事で不足する日射を取り込む天窗設置

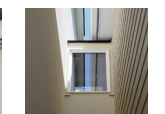
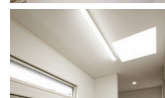
息子夫婦に気兼ねさせたくない

夫婦二人きりの暮らしを楽しめるゆとりある空間作り

老後は趣味に打ち込みたい

離れの工夫

母屋の工夫



2階部分渡り廊下



トップライトを設けて室内の明るさを確保



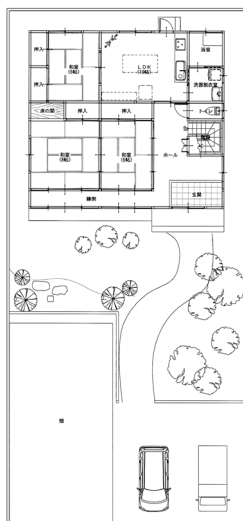
減築でゆとりある暮らしを実現

南面1面開口からの日射取得

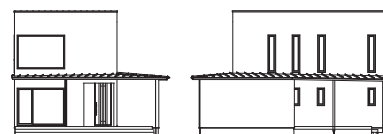
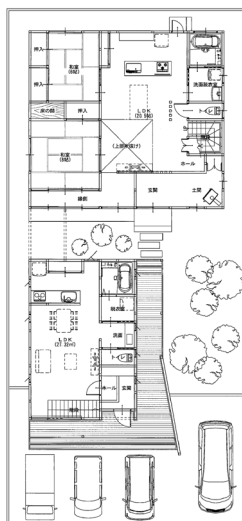
母屋との視線を配慮

洗濯物の室内物干スペース

Before



After



庭先近居 はなれの暮らし

出雲で伝統的に続くはなれの暮らしを、次代の暮らし方として進化させた住まい。

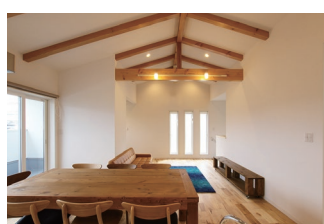
構想の実現化

“庭先近居” F様邸 実例写真



小さな窓を多数配置して、日射取得と視線の遮断をバランスよく両立

“庭先近居” T様邸 実例写真



スリット窓を採用、ベランダの囲いを高めに設定して外部からの気になる視線に配慮

グッドデザイン
審査委員の評価(公開コメント)

戸建て住宅の敷地内に計画する、「はなれ」を商品化住宅とする。ありそうでなかったアイデアである。子供の独立に伴い、敷地内に「はなれ」をつくるのが習慣となっている地域にて、そのはなれのあり方を徹底して追求したからこそ実現したデザインである。しかしその「はなれ」をつくるという形式は、郊外や地方都市で広く展開できる方法である。新築とは違った住宅の更新方法として、新しいプロトタイプだと言えるだろう。

グッドデザイン賞について

グッドデザイン賞は、1957年に通商産業省によって創設された「グッドデザイン商品選定制度」に始まり、以来約60年にわたって実施されてきました。その対象はデザインのあらゆる領域にわたり、受賞数は毎年約1,200件、59年間で約43,000件に及んでいます。

グッドデザイン賞を受賞したデザインには「Gマーク」をつけることが認められます。「Gマーク」は創設以来半世紀以上にわたり、「よいデザイン」の指標として、その役割を果たし続けています。

島根県に関する企業や団体の受賞は、1991年の三菱農機さんのトラ

クター(商品デザイン部門)に始まり、2013年の出雲市さんの「神門通りおもてなしステーション」(公共領域のための空間・建築・施設部門)まで17件となっていました。2014年度と2015年度の受賞は無く、2016年度は邑南町観光協会さんの「耕すシェフ」(ビジネスモデル部門)と弊社の庭先近居「はなれの暮らし」(住宅・住空間部門)が2年ぶりの受賞となりました。

ちなみに、弊社が受賞したこの住宅・住空間部門での受賞は、島根県内に本拠地のある企業としては初の受賞です。